

隠岐の島町地域おこし協力隊年間活動報告書（R2年度分）

地域おこし協力隊 配属先 隠岐の島町役場 地域振興課
氏名 土橋 豊

1. 各月の活動報告

- **8月**：協力隊としての大きな活動はなく、課内業務をメインに遂行。課内の定住支援業務に関しては、協力隊としての本ミッションである「関係人口創出」と大きく関わるため、業務内容を理解し、少しずつ吸収していくことを意識する。

コロナウイルスの影響で、セミナーや会議等がオンラインで開催する流れがあり、課においてタブレット端末等を使用し、オンラインに対応する準備を進めている。オンライン会議サービス「ZOOM」の導入やヘッドセット等の備品購入など、オンライン環境が整いつつあるため、セミナーや会議だけではなく課業務である「移住相談」等についてもオンラインの導入を目指す。

- **9月**：地域おこし協力隊推進会議

本町に在籍する地域おこし協力隊を対象とした企画推進会議を実施予定。運営事務局として会議の企画・運営を担う。協力隊における「企画推進」に特化した会議としては初開催となるため、実用性かつ継続性の仕組み作りを模索中。10月初旬開催予定。

- **10月**：モデル施設視察

協力隊活動及び任期後の活動のモデルにしたい事業を展開されている県外施設を視察訪問。施設管理者であり協力隊OBでもある方に直接お話を伺い、隠岐の島町での運用について具体的なアドバイスをいただく。

しまね移住フェス

ふるさと島根定住財団主催の県内自治体・学校を対象としたオンライン相談会に参加。例年は東京・大阪会場にて同イベントが行われるが、今年度は全面的にオンラインでの開催を敢行。見立て通りフェス自体の参加数は芳しくなく、本町ブースへの訪問も僅か数件のみであった。今後、本町でも移住相談のオンライン化を取り入れていきたいため、本事業を教訓とし、ICTを活用した相談窓口としての機能を整える。

地域おこし協力隊企画推進会議

協力隊を対象とした企画推進会議を実施。企画に特化した会議として、来年度予算申請前のブラッシュアップの場として大変良い機会となった。実用性かつ継続性のある会議として今後も続けていきたいため、セミナーやワークショップなど協力隊活動としての必要性を鑑みて柔軟に展開していきたい。

- **11月**：空家セミナー&相談会

島内の空家所有者を対象としたセミナーと相談会を開催。セミナーでは講師の先生から「空家の活用方法」についてご講談いただいた。オンライン環境に関して若干の不安が残っていたが、当日は大きなトラブルもなく進行することができた。来年度実施の可能性も充分にあるため、オンライン環境（PC台数の拡大・ケーブル等備品の完備）を盤石なものにしていく予定。相談会に関しては、相談者が昨対70%だったが空家バンク登録率の上昇に反比例したものと考察。来年度以降はセミナー・相談会ともに実情を汲みながら、継続して企画運営していく。

- **12月**：関係人口創出・拡大に向けたスキルアップミーティング

内閣府主催のオンラインセミナーに参加。相談者側として参加し、約一時間2名の実業

家の方と隠岐の島町が行うべき関係人口創出事業について議論を交わす。自身が任期後に目標としている事業を現在展開されている方とパイプを作れたため、今後の取り組みにおいて大いに参考にしていきたいと思う。

地域おこし協力隊推進会議

予算申請中のため、通常の企画会議ではなく、財政課による「確定申告」についての講義を開催。協力隊の性質上、任期後に起業する可能性が高い隊員が複数名いるため、自身も含め任期後の税金に関する具体的な理解を深めることができる良い機会であった。

■ 1月：ふるさと食体験オンラインセミナー

コロナ禍においていかに関係人口を生み出すか、他自治体の事例を参考にしたセミナーを聴講。隠岐の島町においても、支所で実施している事業を例に、食体験を通じて関係人口の創出を図る利点は多くある為、今後の活動の参考にしたい。

■ 2月・3月：関係人口創出事業ロゴデザイン公募事業

自身のメインミッションである関係人口施策に「隠岐の島町ブランド」としてのイメージを持たせることを目的に、メインビジュアルとなるロゴのデザイン案を一般公募にて募集。報道各社への情報提供や各種情報媒体への協力依頼により、展開してから2週間程で想定数を超える応募が集まる。100件以上集まった作品から、各課長らによる審査会によりグランプリ作品を選定。今後の関係人口施策において積極的に使用していく。



2. 翌年度の活動内容予定

- 各種関係人口創出事業
- Twitter プレゼントキャンペーン
- 隠岐の島町人物図鑑制作